



NEWS

2010 No.234

9月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

「NGPエコひろば」始まります!

エコ整備に熱心な整備事業者様を積極的にPR リサイクル部品を使った修理で温暖化防止に努めよう

10/1 Start

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、エコな整備・修理を希望するカーユーザーの方々に優良な整備事業者の皆様を紹介するwebサイト「NGPエコひろば」を10月1日に開設します。環境に優しい整備・修理の取り組みをサポートする、NGP協同組合からのご提案です。



猛暑の日々が続いたこの夏。地球環境を守るために温暖化防止がいかに大切かを改めて痛感したカーユーザーは多いはず。この秋、エコカーに買い替えるチャンスは逃したが、二酸化炭素(CO2)排出削減のためにせめてエコ整備を進めたい、と考えるのではないのでしょうか。

そうしたカーユーザーに、近くにあるエコ整備に熱心な優良整備事業者様を紹介するのが「NGPエコひろば」、NGP協同組合が開設するwebサイトです。カーユーザーが、モニター画面の地図、あるいは都道府県から検索して近くにある優良整備工場を探し出し、車検整備や事故車修理の見積もりを整備事業者の皆様にご依頼できる仕組みを整えました。

自前のホームページがなくても心配いりません。御社がどのような資格を持ち、どのようなサービスを提供しているかについて簡単に紹介するページを作ります。社屋、工場設備の写真を掲載、特別にこうしたことが得意などと自社をPRできる欄も設けています。

たかがwebサイト、と思わないでください。NGP協同組合として整備事業者の皆様と一体になった取り組みが、今後の自動車アフターマーケットの成長戦略として必要だと判断し、乗り出すことにしたものです。積極的に「NGPエコひろば」の広報宣伝活動に取り組み、多くのカーユーザーにアクセスしてもらおうための取り組みを展開します。

NGP協同組合は「日本最大の環境展」で

ある「エコプロダクツ」に単独出展し、自動車リサイクル部品の啓もう普及活動に取り組んでいます。自動車リサイクル業界で継続して出展しているのはNGP協同組合だけです。エコプロダクツには幼稚園から小・中学生を含めて幅広い層の人が見学に訪れます。NGP協同組合

は今年もエコプロダクツに出展し、とりわけ「NGPエコひろば」のPRを行って行く予定です。

また、エコ整備の主要アイテムのひとつ、リサイクル部品の利用についても、全国組合員数144社204拠点を誇る業界最大のネットワークと豊富な部品在庫量を誇るNGP協同組合がサポートします。

NGP協同組合が提供するリサイクル部品は、独自の商品基準に基づいて1点ごとに厳正な検査を行うとともに、機能部品についてはテスター機器を用いて点検するなどし、高い品質を維持しています。さらに信頼の証であるギャランティー・シールを貼付し、品質保証を行っています。整備工場の皆さまは安心してカーユーザーにお勧



優良工場の皆様を紹介するwebページのイメージ。オリジナルのPRも可能

めいただけます。

もちろん、新品部品を使って修理することに比べて、リサイクル部品は価格も安く、CO2の排出削減につながります。「エコ三角すい」「くるくるリサイクル盤」「リサイクル部品マンガチラシ」といった支援ツールも用意していますので、リサイクル部品をエコ整備の太い柱としてアピールし、お客様を呼び込むことも可能です。

もちろんこれまで同様、不要な自動車の引き取り、処理に関してもお手伝いさせていただきます。少子高齢化が進み、自動車保有も減少傾向にあります。厳しい競争を勝ちきるためには積極的なPRは欠かせません。その一端で「NGPエコひろば」の活用をご検討ください。

伸び続ける軽自動車の保有

10年3月末の普及、2世帯に1台にあと一步

軽自動車の普及が進んでいます。全国軽自動車協会連合会の集計では、軽自動車の100世帯当たりの普及台数は49.9台で、昨年の49.5台からさらに0.4台普及が進みました。これは、総務省調べの「住民基本台帳世帯数」と国土交通省調べの「自動車保有車両数」をもとに算出した2010年3月末現在の数字です。2世帯に1台の普及までほんのわずかな状況です。

景気が低迷しているため、軽自動車に乗り換えるユーザーが多いのかもしれませんが、10年3月末時点の自動車総保有台数は7517万6380台、前年の3月末と比較すると0.16%減少したのですが、これに対して軽自動車保有台数は2665万3506台となり、同1.8%増と伸びました。自動車総保有台数が伸びている地域は茨城県や愛知県、福岡県をはじめとした九州全県と沖縄県などに限られますが、軽自動車保有の方はすべての都道府県で伸びているのです。

地域別みると、和歌山県、島根県、高知県、長崎県、沖縄県で軽自動車が自動車総保有台数の50%を超えています。

一方、世帯当たりの軽自動車普及が最も高いのは鳥取県で、100世帯当たり97.6台の普及となり、自動車保有に占める軽自動車の割合も49.9%に達しています。以下、普及率では佐賀県、島根県、長野県、山形県と続き、以上の県がベスト5になります。

一方、軽自動車の普及が低い地域は、低い順に東京都、神奈川県、大阪府、埼玉県、千葉県となります。当然、自動車保有に占める軽自動車の割合も、東京都17.3%、神奈川21.5%と低く、大阪府、埼玉・千葉両県も20%台です。それでも、こうした地域でも09年3月末と比べると軽自動車の保有は微増しているのです。

また、愛知県も軽自動車の保有割合は28.7%と低いのですが、100世帯当たりの普及は47.3台に達します。まさに自動車大国で、軽自動車も生活の足として使

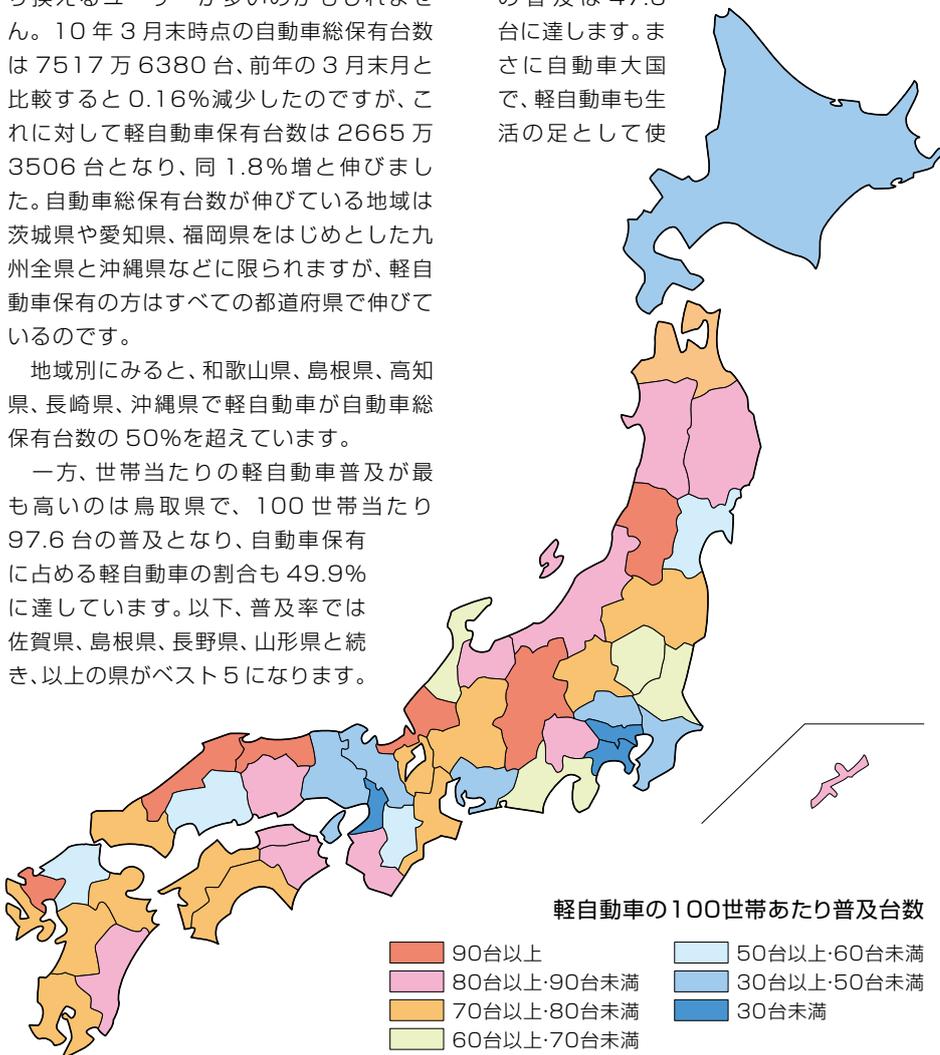
われている現状がうかがえます。

軽自動車の100世帯当たり普及台数は、1982年に20台を超え20.2台となり、88年に31.9台、2000年に40.8台と伸びてきました。日本の自動車保有全体が縮小傾向となるなかで、軽自動車は依然として伸び続けており、来年は50台の大会を突破するかもしれません。

軽自動車の保有・普及状況

都道府県	軽自動車保有台数	総保有に占める軽シェア(%)	100世帯当たり普及台数	保有台数の対前年伸び
北海道	983,132	27.9	37.0	↘
青森	408,848	42.7	71.6	↘
岩手	408,841	43.0	81.3	↘
宮城	533,126	35.3	58.8	↘
秋田	340,791	43.0	81.3	↘
山形	379,363	42.6	95.4	↘
福島	587,978	38.8	78.4	↘
茨城	763,584	32.2	68.1	↗
栃木	498,466	31.5	66.1	↗
群馬	592,002	35.6	77.2	↘
埼玉	1,035,620	27.9	35.6	↘
千葉	933,624	28.1	36.3	↗
東京	686,635	17.3	10.9	↘
神奈川	785,190	21.5	20.0	↘
山梨	290,641	41.7	86.6	↘
新潟	739,219	42.2	87.0	↘
富山	321,789	37.7	82.8	↘
石川	308,422	36.3	69.4	↗
長野	777,599	43.7	95.5	↘
福井	251,845	40.1	92.5	↘
岐阜	588,100	36.6	78.9	↘
静岡	993,801	37.0	69.0	↘
愛知	1,367,457	28.7	47.3	↗
三重	570,780	40.4	78.7	↗
滋賀	390,619	41.5	76.6	↗
京都	448,937	35.6	40.2	↘
大阪	1,015,593	29.3	26.0	↘
奈良	300,710	38.0	54.1	↘
和歌山	356,044	50.1	83.1	↘
兵庫	951,827	34.0	40.6	↘
鳥取	221,084	49.9	97.6	↘
島根	265,609	50.2	96.1	↗
岡山	644,599	45.0	82.6	↘
広島	724,551	41.2	59.1	↘
山口	457,468	44.7	71.1	↘
徳島	268,006	45.5	83.7	↘
香川	328,533	45.0	80.0	↗
愛媛	462,199	48.1	73.3	↘
高知	276,135	51.8	79.0	↘
福岡	1,141,084	37.4	52.5	↗
佐賀	301,280	48.0	97.3	↗
長崎	451,038	51.5	73.8	↗
熊本	569,244	44.6	78.0	↗
大分	391,370	45.3	77.0	↗
宮崎	431,533	49.1	86.2	↗
鹿児島	622,417	49.2	79.2	↗
沖縄	486,773	52.5	86.9	↗
合計	26,653,506	35.5	49.9	↘

※軽自動車保有台数は2010年3月末、3輪車を除く総保有台数。シェア等は自動車保有台数から2輪車を除いた数値をベースに算出した。



NGP 今月のCO2削減量

リサイクル部品利用にともなう削減効果

※ NGP をはじめとしたリサイクル部品販売事業 12 団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できた CO2 の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



NGP 平成 22 年 7 月: **6,797 t**

NGP 1 月からの累計: **45,834 t** (全12団体 1 月からの累計 **79,928 t**)

リターナブル梱包材利用にともなう削減効果

※リターナブル梱包材の利用にともなう削減効果は NGP 協同組合独自の CO2 排出削減の取り組みです。ダンボールに代えて、専用梱包材を 200 回繰り返し使用することで削減効果を試算しました。



NGP 平成 22 年 7 月: **6.8 t**

NGP 1 月からの累計: **55.1 t**

乗用車で採用拡大の動きが始まる

「アイドリングストップ」も使い方によってはハイブリッドよりお得に

「マイクロハイブリッド」という言葉を聞いたことがありますか？ ハイブリッド車と言えばトヨタ「プリウス」、ホンダ「インサイト」等々、ガソリンエンジンとモーターで駆動する自動車のことを思い浮かべますが、マイクロハイブリッドはちょっと違います。一旦停止したエンジンをモーターで駆動する機構、そうアイドリングストップをさす言葉です。

アイドリングストップはバスやトラックなどの大型車で採用されています。乗用車ではマツダの「i-Stop(アイストップ)」の名が通っており、「アクセラ」「ビアンテ」、そして7月に全面改良した「プレマシー」にも装備されました。マツダ車以外でも、日産自動車が7月に全面改良した「マーチ」にアイドリングストップ装備車を設定しました。

今から10数年前にも乗用車にアイドリ

ングストップの装着が進んだことがありますが、今の機構とは大違い、再スタートに時間はかかるし、振動はあるしで装着が進みませんでした。現在の機構は、再スタートまでマツダで0.35秒、日産で0.4秒、振動・騒音等もなく至極スムーズです。

燃費への貢献は、マーチの10・15モードのカタログ値で比較すると、無装備車が24km/ℓに対し装備車は26km/ℓ、その差2km/ℓでしかありません。ハイブリッド車のような派手さはないのですが、その分低コスト。バッテリーも専用の大型バッテリーは必要なく、通常の鉛バッテリーをもう1個搭載するか、通常のものより電圧の高いものを搭載するかで済みます。このため価格も、同じ車格の車に比べてハイブリッド車が50万円以上割高になるのに対して、数万円の差で済みます。

燃費の効果を馬鹿にしてはいけません。年



アイドリングストップが装着された日産「マーチ」(上)とマツダ「プレマシー」(下)

間5000km程度しか自動車に乗ることがないユーザーが、ハイブリッド車の割高な車両価格分を走行で取り戻そうとすると、10数年乗り続けなくてはなりません。トータル費用で比べると、アイドリングストップの方がよほど省燃費でお得になることもあるのです。

こうしたアイドリングストップ搭載車、市場の評価も高まっており、徐々に販売を伸ばしています。

自動車の世帯保有は下降線

総務省「全国消費実態調査」で自動車保有が初のマイナスに 自検協のマイカー普及率も4年連続で減少

自動車保有台数の減少を示すデータが相次ぎ発表されました。2009年の総務省「全国消費実態調査」では、2人以上世帯1000世帯当たりの自動車保有台数は1414台となり、2004年の前回調査に比べて2.2%減少しました。自動車は1964年に初めて調査項目に加わり、保有台数は一貫して増加していましたが、5年に1回行われる調査で今回初めてマイナスとなりました。世帯当たりの普及率も86.2%から85.5%に下がりました。

全国消費実態調査では、複数保有の世帯が減少していることがうかがえます。1台だけ保有する世帯は44.8%で、0.4%ポイントの微増、2台保有する世帯も29.1%で前回調査と変わりませんが、3台以上を保有する世帯は11.6%で0.9ポイント低下。保有3台目以上の車両台数は前回の417台から383台に11.6%減少、保有の絞り込みが進んでいます。

世帯主の年齢階級別の保有状況は表の通

りです。小型自動車は60歳代を除くすべての年齢階級で減少、反対に軽自動車の保有は40歳代を除くすべての年齢階級で増加しています。

一方、自動車検査登録情報協会がまとめた2010年3月末の自家用乗用車世帯当たり普及台数は1.080台で、前年比で0.006台減、2000年3月末の1.075台の水準まで後退しました。

軽自動車・登録車合わせた自家用車保有台数は5763万7404台と、09年3月末に比べて22万6256台増えています。しかし、同時に世帯数も約48万5千世帯増えて5336万2801世帯となり、世帯数の増加に保有の伸びが追いつきませんでした。自家用乗用車の普及台数は06年3月末の1.112台から4年連続して減少しています。

自動車の世帯主世代別、種類でみた1000世帯当たりの台数(単位:台、下段は増減単位:%)

	平均	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全自動車	1414 ▲2.2	1160 ▲6.4	1336 ▲1.5	1447 ▲6.6	1756 ▲1.4	1497 5.2	975 6.3
軽自動車	422 8.5	366 8.6	350 6.7	394 ▲5.7	584 13.9	461 20.7	321 15.5
小型車	668 ▲6.6	559 ▲8.5	635 ▲0.6	641 ▲9.1	811 ▲10.1	730 0.1	489 ▲2.2
普通車	251 ▲12.8	193 ▲20.9	284 ▲12.1	317 ▲11.9	303 ▲9.8	237 ▲10.6	126 13.5
ハイブリッド・EV	19 —	7 —	12 —	18 —	26 —	25 —	14 —
輸入車	53 ▲1.9	34 ▲26.1	54 ▲19.4	77 16.7	68 9.7	44 ▲2.2	25 ▲10.7

委員長会議を本部会議室で開催

来期に向けて各委員会の活動計画をすり合わせ

NGP協同組合の委員長会議が8月23、24日の両日、東京・港区のNGP本部会議室で開かれました。委員長会議は、10月25日に予定するNGP協同組合定時総会の準備で開かれたもので、各委員会から今期の活動報告および来期活動計画の提出を



各委員長が具体的なテーマだしを行い、活動方針をすり合わせた委員長会議

受け集中討議を行い、来期活動計画のすり合わせを行いました。

具体的には、取り組み始めた「NGP エコひろば」の効果を高めるために、実施の中心である車両流通委員会とNGPのホームページを担当している総務広報委員会とが連動して、ユーザーをネットワークに取り込むことなどが、来期の活動計画に盛り込まれました。各委員会の計画に対して活発な意見交換ができ、有効な会議になっています。

また、広報活動に関しても継続して力を入れ、リサイクル部品の優位性のPRを行っていく計画です。来期もエコプロダクツへの出展などを通じて、リサイクル部品がCO2削減効果を持つことをユーザー浸透させていくことにしています。

会議の中で、NGP創立20周年で制作したDVD「プロジェクトNGP」



が、NGPの歴史を知る上で有効で、研修会の受講者からもわかりやすいと評判も良いとの報告がありました。教育委員会や指導委員会で、オーナー研修から基礎研修、初級研修と幅広い場面でこのDVDを利用して教育効果を高めているそうです。今後も、機会があるごとにDVDを活用してNGP理念・精神の浸透に努めることにしています。

理事が集まり、戦略会議を開催

任期折り返しの活動指針を集中討議、来期計画のベースを練り上げる

NGP協同組合は8月26、27日の両日、福島県白河郡西郷村のホテルで戦略会議を開きました。大橋岳彦理事長以下全理事が顔をそろえ、NGP協同組合が今後、どう進んで行くべきかなどの戦略課題につい



普段とは違った場所で次期戦略課題を集中討議、基本的な方向を全員で確認した

て昼夜2日間にわたり白熱した議論を交わしました。

NGP協同組合は5年前、売上500億円、マーケットシェア50%を目標に掲げて「MS 50」を打ち出しました。5年が経過し、「MS 50」で計画されたシステム戦略、人材育成戦略などの基本的な枠組みの見直し時期を迎えています。掲げた目標についても達成できたもの、未達なままのものさまざまですが、戦略会議はこれらの課題・目標について、集中討議を行い、次期の組織戦略課題や活動方針を見いだすことを目的に実施したものです。

大橋理事長は「昼間の会議とは別に夜は夜でテーマ別に分かれ、グループ討議を行いました。日ごろ顔は合わせていても、じっくりと腹

を割って話し合う機会はなかなか持てません。執行部の任期はあと1年ですが、来期に向けて何をどのように取り組んでいくかを見極めることができ、充実した時間を過ごすことができました」と話しています。

戦略会議は限られた時間のため、「売上500億円、マーケットシェア50%」という目標を堅持するかなどをはじめとして詰め切らなかった課題もありますが、10月25日東京都港区のホテルで開く総会で提案する活動方針や事業予算の大枠を確認することができました。海外戦略や広報戦略など継続して取り組むことを決めたほか、作業現場の安全確保について見直し、組織全体で再度徹底することをなども決めました。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201